

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2021 年 2 月号

NO. 326

TOPICS

ナラティブの時代：経営に実装されるパブリックリレーションズ

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事 本田 哲也

MESSAGE P4

PRsj 新春シンポジウム開催報告

ATTENTION P5

「広報・PRスキルアップ実践講座」第6回 2月下旬からオンラインで開講

ATTENTION P7

「PRアワード受賞事例公開セミナー2021」3月4日にオンラインで開催

ATTENTION P8

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー
5F 電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <https://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル 3F
電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人：畔柳 一典

2月号目次

2月～3月のスケジュール	—	2
MESSAGE(メッセージ)	ナラティブの時代:経営に実装されるパブリックリレーションズ	— 4
REPORT(開催報告)	PRSJ新春シンポジウム開催報告	— 5
ATTENTION(お知らせ)	「広報・PRスキルアップ実践講座」第6回 2月下旬からオンラインで開講	— 7
〃	「PRアワード受賞事例公開セミナー2021」3月4日にオンラインで開催	— 8
BULLETIN(活動報告)	第21回企業部会フォーラム(1月13日)開催報告(正会員・個人会員限定)	— 9
What's New from IPRA	IPRA新会長 Philippe Borremansより新年のご挨拶 IPRAのアワード、GWAが2月23日よりエントリー受付開始	— 10
協会掲載記事	PRSJ in Media	— 15

2月～3月スケジュール

【オンライン】PRプランナー1 次試験対策講座	日 時	1 月 13 日(水)～3 月 19 日(金)
	講 師	株式会社井之上パブリックリレーションズ 執行役員 コンサルティング 2 部 部長 横田和明氏、株式会社エイレックス 危機管理広報コンサルティング部長 畑山 純 氏
【オンライン】広報・PR スキルアップ実践講座 リサーチ & PRプランニング	日 時	: 1 月 15 日(金)～3 月 1 日(月)
	テーマ	: 戦略的広報活動のための「調査」の重要性と実施ポイント ～広報PDCAにおける「調査」の役割と具体的方法～
	講師	: 株式会社オズマピーアール コミュニケーションデザイナー／クリエイティブディレクター 登坂泰斗氏、コミュニケーションプランナー 猿田一揮氏
【オンライン】広報・PR スキルアップ実践講座 企業文化醸成	日 時	: 2 月 1 日(月)～3 月 15 日(月)
	テーマ	: 企業文化醸成とパブリックリレーションズ ～創業の理念と企業文化のインヘリット(継承)活動～
	講師	: 株式会社資生堂 社会価値創造本部アート&ヘリテージ室長 上岡典彦氏
【オンライン】国際セミナー	日 時	: 2 月 9 日(火)16:30～18:00
	テーマ	: Communicating with the changing international media ～変貌する国際メディアにどう向き合うか？
	講師	: フィナンシャル・タイムズ東京支局長 ロビン・ハーディング氏
【オンライン】第 211 回定例研究会	日 時	: 2 月 26 日(金) 14:00～15:20
	テーマ	: 国際情勢から考えるメディアの役割とニュース解説の目指すもの ～報道に厚みを増す NHK 解説委員室の現状とこれから～
	講師	: NHK 放送総局 解説委員長 今村啓一氏
【オンライン】広報・PR スキルアップ実践講座 危機対応	日 時	: 2 月下旬開講予定
	テーマ	: 危機管理の重要性と対応
	講師	: ゼウス・コンサルティング株式会社 代表取締役社長 白井邦芳氏
【オンライン】PR アワード受賞事例公開セミナー	日 時	: 3 月 4 日(木) 15:00～17:40

2月～3月の理事会・委員会・ 部会スケジュール

定例理事会	(2 月度)	日 時	: 2 月 10 日 (水)	16:00～17:30
		会 場	: オンライン開催	
	(3 月度)	日 時	: 3 月 11 日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: オンライン開催	
教育委員会	(2 月度)	日 時	: 2 月 10 日 (水)	13:30～15:00
		会 場	: オンライン開催	
資格委員会	(2 月度)	日 時	: 2 月 25 日 (木)	12:00～13:30
			: オンライン開催	
国際・交流委員会	(2 月度)	日 時	: 未定	
広報委員会	(2 月度)	日 時	: 2 月 25 日 (木)	16:00～17:30
			: オンライン開催	
顕彰委員会	(2 月度)	日 時	: 2 月 22 日 (月)	15:00～16:30
			: オンライン開催	
企業部会幹事会	(2 月度)	日 時	: 2 月 3 日 (水)	17:00～18:30
			: オンライン開催	
PR業部会幹事会	(2 月度)	日 時	: 2 月 16 日 (火)	16:00～17:30
			: オンライン開催	

ナラティブの時代：経営に実装されるパブリックリレーションズ

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

理事 本田 哲也

2021年が明けるとともに緊急事態宣言が出され、ワクチンの見通しも含めて、まだまだ先行きがわからない1年が始まりました。

昨年のコロナ禍という危機的な状況の中、企業の経営層、事業部、広報PRチームはどのように対応にあたっていたのでしょうか。私が感じた限りでは、平時以上に連携して動いていた企業があった一方、事業部はPRをコストと捉えてしまったり、逆にPRチームは事業部が発するメッセージに対し「社会の状況をわかっていない」と不信感を持ってしまうケースもあったように思えます。

企業がPRを、「発信機能」や「企業が有するパーツの一つ」とだけ捉えていると、連携が必要という発想にならず、結果として企業やブランドの行動と発信がバラバラになってしまいます。昨年は、あらためてそうした気づきもあったのではないのでしょうか。

さて、私個人としては、2021年からは「ナラティブ」の重要性が高まると思っています。グローバルなコミュニケーション業界では3～4年前から、「ストーリーテリングからナラティブへの移行」ということが言われてきましたが、その重要度はコロナ禍で一層高まっています。

私はナラティブを「物語的な共創構造」と定義しています。日本語に訳そうとすると難しいのですが、ストーリーとナラティブは明らかに違うものです。まずは主役の違いが挙げられます。ストーリーは企業が主役で、ストーリーを通じて企業ブランドの良さを伝えていく。そして「起承転結」と言われるように、必ず終わりがある。一方ナラティブはより共創的で、生活者も含めたあらゆるステークホルダーが主役です。企業は自分たちについて魅力的に語ればそれで良い、ということではなく、それが生活者一人一人が持っている物語や、社会で紡がれる物語にどのような意味をもたらすかを示さねばなりません。ナラティブは現在進行形で、「終わりが無い」のです。

企業がナラティブな存在になれるかどうか——これは経営マターだと思います。そしてそのために必要なのがパブリックリレーションズの発想や技術です。企業のひとつの発信機能やコストセンターというレベルではなく、企業がナラティブになるためには、パブリックリレーションズは経営に実装されなければならないのです。ナラティブの時代に、パブリックリレーションズの役割と期待はさらに高まるでしょう。

1 月 20 日 PRSJ 新春フォーラムをオンラインで開催

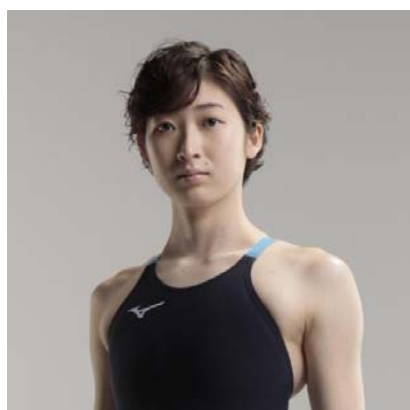
1月20日（水）、協会主催イベントである「PRSJ新春フォーラム」を今年はオンラインで開催し、延べ人数 230余名の方々にご視聴いただきました。

当日は、「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」及び「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」の発表と、「PRSJ新春シンポジウム」と題したトークセッションを開催いたしました。各々の報告は以下の通りです。

日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」「シチズン・オブ・ザ・イヤー」決定

■「パーソン・オブ・ザ・イヤー」受賞者：池江璃花子氏（競泳選手）

授賞理由：池江選手は、日本競泳界の第一人者として期待される中で白血病と診断されました。治療のための厳しい闘病生活を経て本年、見事に競技に復活されました。闘病生活中にも度々発信されたメッセージを通じて、病気を克服し競泳競技に復活することへの強い意志を表現された姿勢に、多くの国民からの支持と共感を獲得されました。メッセージを発信することでコミュニケーションの大切さを強く印象付けられ、パブリックリレーションズの観点から多大な功績が認められました。



プロフィール

2000年7月4日生まれ、東京都出身。3歳から水泳を始め、16歳にして挑んだリオ五輪では、日本人選手最多の7種目で出場し、100mバタフライでは5位入賞をするなど活躍。2018年第94回日本選手権では、「全出場種目の日本新記録更新」の宣言通り、出場4種目で計6個の日本新記録を出し会場を沸かせた。この勢いのまま、アジア競技大会では日本選手初の6冠を達成し、世界にその名を轟かせた。2019年2月に「白血病」を公表したが、同年12月に退院。2020年8月に東京都特別水泳大会で実践復帰され2024年のパリ五輪出場、メダル獲得を目指している。

■「シチズン・オブ・ザ・イヤー」受賞者：一般社団法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ

授賞理由：多様性を認め合う社会のための気づきを与える活動を継続し、さらにコロナ禍の中でも社会のニーズに対して積極的に新たな取り組みを進めていく姿勢がシチズン・オブ・ザ・イヤーとしてふさわしい。



プロフィール

日本では20年に亘り、暗闇での体験を通して互いを認め助けあう社会を実現するための3つのフラッグシップ・プロジェクト『Dialogue in the Dark』『Dialogue in Silence』『Dialogue with Time』を様々な地域・場所で展開。2020年8月に3つを体験できる「ダイアログ・ミュージアム対話の森」を開設。さらに、コロナ禍で通常の体験を提供できない中、世界で初めて暗闇ではなく明るい中での体験に進化させた「ダイアログ・イン・ザ・ライト」を発表。

新春PRシンポジウム
2021年パブリックリレーションズへの期待と可能性を探る



Moderator
本田 哲也氏
株式会社本田事務所



Panelist
阿久津 聡氏
一橋大学大学院



Panelist
浜田 敬子氏
ジャーナリスト/元AERA編集長



Panelist
山下 節子氏
MSD株式会社

新春PRシンポジウム

■テーマ：2021年パブリックリレーションズへの期待と可能性を探る

「新春PRシンポジウム」では、2020年11月に開催しました「PRSJ40周年記念フォーラム」にて発表されました「2020年 PRSJ宣言」ならびにPRSJ理事によるトークセッションを踏まえ、学識者、ジャーナリスト、企業広報の責任者などさらに視点を広げて、これからの新しい時代における「PRへの期待」と「PRの持つ可能性」についてさらに議論を掘り下げていただきました。

■登壇者

モデレーター：本田哲也氏（株式会社本田事務所 代表取締役／PRストラテジスト）

パネリスト：阿久津 聡氏（一橋大学大学院 経営管理研究科 教授）

同：浜田敬子氏（ジャーナリスト／元アエラ編集長）

同：山下節子氏（MSD株式会社 執行役員 広報部門統括）



広報・PR 実務講座 2020

「広報・PRスキルアップ実践講座」第6回 「危機管理の重要性と対応」を2月下旬から開講

教 育 委 員

協会では、今期の最終回となる「広報・PRスキルアップ実践講座」第6回として、危機管理広報をテーマとするオンライン研修「危機管理の重要性と対応」を2月下旬から開講します。

突発的に発生する事故、社員や役員の不祥事、ネットにおける炎上など、企業にとって緊急事態は決して稀有なことではありません。望むと望まぬにもかかわらず予期せぬ事態にみまわれた時、ひとたび対応を誤ると企業は社会からの厳しい視線と批判に晒されます。そしてそれまで築き上げたレピュテーションやブランドが激しく傷つく事態に陥るだけでなく、最悪の場合、企業としての存続までもが脅かされる重大危機に陥るのです。



そのような万が一の事態に対処するため企業にとって重要なのは、平穏に事業を進められる平時から、発生の可能性が予見されるさまざまなリスクを洗い出しその発生をコントロールする「リスク管理」の取組みを進めること。そして危機の事前予防に努めるとともに、よもやの緊急事態には、損害・損失を極小化し存続をかけた事後処理を進める「危機管理」施策を綿密に検討し準備しておくことです。すなわち「リスク」と「危機」を明確に認識し、経営トップのリーダーシップのもと、平時から緊急時までを見通す全社一丸となった危機管理の取組みが重要です。

危機に見舞われ会社がいかに緊張と混乱の極みにあろうとも、広報担当者はひるむことなく冷静かつ果敢な対応が求められます。なぜなら危機管理において、メディアをはじめとするステークホルダーへの適切なコミュニケーション（危機管理広報）は、危機からの回復において極めて重要な役割を果たすからです。広報担当者は、全社的な危機管理施策の一環として事態の進展に応じ適切なコミュニケーションをステークホルダーに対し行えるよう、平時からその基本について理解し対処法や考え方を身に付けておくことが必要です。

本講座では、危機管理の専門家として知られる白井邦芳氏（ゼウス・コンサルティング株式会社 代表取締役、社会情報大学院大学 広報・情報研究科教授）を講師にお招きし、危機管理についての基本的な考え方とその重要性、また施策の一環としての危機管理広報の役割と進め方について学びます。特に、危機発生時において極めて重要となる記者会見の実施判断や記者会見を成功させるためのポイント、さまざまなリスクイベントへの対処法や考え方などについて、事例を交え具体的にご解説いただきます。

危機管理の重要性と危機管理広報のポイントを学ぶ本講座。広報・PRにかかわる皆さまの受講をお待ちします。

なお本講座の詳細ならびに申込みについては、2月中旬から協会Webサイトの案内ページでお知らせします。

（事務局 真部）

広報・PR実務講座

「PRアワード受賞事例公開セミナー2021」 今年は3月4日にオンライン開催

教育委員会

来る3月4日、協会では『PRアワードグランプリ 2020』を受賞したエントリー事例を広く公開し、卓越したPR戦略の立案や活動のポイントを探る「PRアワード受賞事例公開セミナー2021」を開催します。今回は新型コロナウイルスによる感染防止のためオンラインセミナーとして開催し、講演及びトークセッションはライブ中継を通じてご覧いただきます。

長年わが国のPRとともに歩み、その方向を指し示してきた恒例の「PRアワードグランプリ」。12月に実施された「PRアワードグランプリ 2020」では、79件のエントリー事例が井口理審査員長（株式会社電通パブリックリレーションズ執行役員）をはじめ10名の審査員により厳正に審査されました。その結果、「グランプリ」として2件が、また「シルバー」「ブロンズ」には各々7件のエントリーが受賞の栄冠を勝ち取っています。

今回開催する「PRアワード受賞事例公開セミナー」では、プロジェクト推進にかかわった関係者による講演を通じ5つの受賞エントリーを紹介する予定です。また、講演の後には「トークセッション」を開催し、「PRアワードグランプリ 2020」の振り返りからPRの潮流やエントリーの傾向、受賞のポイントなどを掘り下げる、活発な意見交換を行います。

本セミナーの詳細及びお申込みについては、協会Webサイトで2月中旬からお知らせします。

■「PRアワード受賞事例公開セミナー2021」主な予定

時刻	内 容（予 定）	エントリー会社と事業主体
15:00	開会	
15:05 ～17:00	講演1 「冷凍餃子#手間抜き論争」	エントリー会社:(株)本田事務所／(株)マテリアル 事業主体:味の素冷凍食品(株)
	講演2 「分身ロボットカフェ DAWN ver.β」	エントリー会社:(株)ADK クリエイティブ・ワン／(株)サニーサイドアップ 事業主体:オリイ 研究所
	講演3 「ユニ・チャーム ソフィ #NoBagForMe プロジェクト」	エントリー会社:(株)博報堂 事業主体:ユニ・チャーム(株)
	講演4 「上手な換気の方法」を伝えたい！ 「空気で答えを出す会社」の底力」	エントリー会社/事業主体:ダイキン工業(株)
	講演5 「新型コロナウイルスに関する危機管理 広報初動マニュアル」無償提供でコロナ禍での 本質的 PR 発想を最短最速で日本中に提供	エントリー会社/事業主体:(株)井之上パブリックリレーションズ
17:00～ 17:40	トークセッション	登壇者:教育委員会関係者 PRアワード審査員

※登壇エントリーは調整中です。視聴のお申込にあたっては、必ず Web サイトの案内ページでご確認ください。

(事務局 真部)

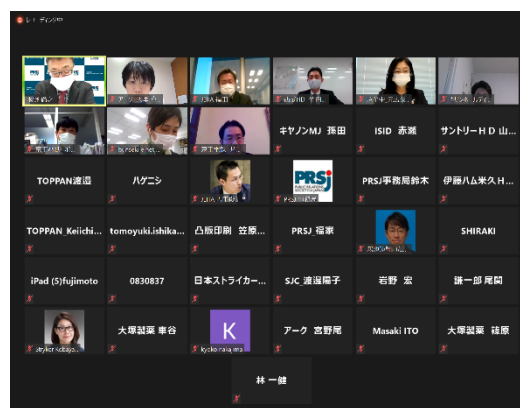
正会員・個人会員限定

第21回企業部会フォーラム(1月13日)開催報告 ～NHK 水野倫之解説委員による講演～

企業部会

企業部会では、2度目の非常事態宣言下である1月13日に、初の試みとしてフルリモートで企業部会フォーラムを開催いたしました。

今回は、東日本大震災に伴い発生した福島第一原子力発電事故を発生直後からニュースなどで状況を解説したほか、講演前日には時論公論で「2050年温室効果ガスゼロへ」を解説するなど、多方面にご活躍をされているNHK解説委員の水野倫之様に「東日本大震災から10年、当時の広報対応を振り返りながらメディアと広報の関係について考える」をテーマに講演をいただきました。当日はリモートでの開催ではありましたが24社33名の皆さまにご参加いただくことができました。





- ・ IPRA 新会長 Philippe Borremans より新年のご挨拶
- ・ IPRA のアワード、GWA が 2 月 23 日よりエントリー受付開始

こちらのページでは、協力関係を結んだ世界的な PR の組織である、IPRA のレポートや情報を随時ご案内していきます。今月は、 IPRA 新会長の新年挨拶と IPRA のアワード、GWA のエントリー受付開始についてご案内いたします。

☆ ☆ ☆ ☆ 要約 ☆ ☆ ☆ ☆

IPRA 新会長 Philippe Borremans より新年のご挨拶 信頼とダイバーシティの年

皆さま、よい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

このたび、Svetlana Stavreva-Petrushkova 氏の後任として IPRA の会長を務めることになりまして光栄とともに身が引き締まる思いです。Svetlana 氏の 2 年にわたる素晴らしい功績を引き継いでいく所存です。

さて、改めて申し上げるまでもなく、2020 年は covid-19 によるパンデミックに完全に世界が覆われてしまった年でした。この影響を過小評価することはできません。この 1 年は私のビジネスでもプライベートでもとてもタフな年でした。コロナと闘いながらアフリカやフィリピンなどへの長期出張やロックダウン、厳しい基準の中での渡航などが私の 2020 年でした。

しかし、2021 年は次に集中していきたいと思います。



信頼できるコミュニケーション

今までにも増して、私は倫理的でオープンで信頼性の高いコミュニケーションが命を救い、平和をもたらし、無関心の壁を壊すことを信じています。幸運にも私はアフリカとアジアでのコロナにおけるリスクコミュニケーションに関わることでこのことを目の当たりにすることができました。私たちは誤った情報、情報不足、フェイクニュース、事実が操作されることもたくさん見てきましたが、タイムリーで誠実な素晴らしいコミュニケーション事例にもふれてきました。コ

コミュニティが行動を起こすことができ、自分たちの力で希望を呼ぶことができるコミュニケーションです。信頼と透明性に根差したこのようなコミュニケーションが IPRA が今年も目指していくところです。

国際的なダイバーシティ

私たちの仕事は素晴らしいものです。フリーランス、エージェンシー、企業内、NPO どの立場のプロフェッショナルも毎日世界中で違いを生み出しています。国際的なダイバーシティこそ、私が保持し、推進していきたいことです。IPRA はコミュニケーションの実践家や各国の組織で国境を超えてつながっていききたい人たちのホームなのです。世界は今までになくつながっていますが、昨年の経験は、地域でのコミュニケーションが理解と協力のためには重要であることを教えています。プロフェッショナルで国際的なネットワークがこれを支えていかなければならないのです。

教育、プロフェッショナルとしての育成サポート

ビジネスや社会が急速に変化する中、PR プロフェッショナルはスキルをアップデートし、新たなスキルを身に付けていかなければなりません。CIPR と *The PR Training Academy* との協働により、IPRA メンバーはオンライン学習の機会を得ることができました。ただ、これはまだ第一歩にすぎません。今年もっとトレーニングやコーチングの機会を設けるようにしていきます。私たちの組織には数百年にわたる PR 実践家の蓄積があります。こうした知見をウェビナー、オンライン学習やコーチングのプログラムで提供していきたいと思います。もう一つの視点はメンタルヘルスです。2020 年の前にも多くの PR パーソンがメンタルヘルスに問題を抱えています。他団体と連携していきながら IPRA ではこの問題にも取り組んでいきたいと思います。

科学を基にしたコミュニケーション

この 12 か月で分かってきたことは、コミュニケーションは科学を基にしたものでなければいけないこと、そして科学は伝えることが難しいということです。いくつかの国では単純な 3 つのルール、ソーシャル・ディスタンス、手洗い、マスク着用を伝えるだけでも大変な思いをしています。それは人間の行動や思い込みに対する知識が充分ではないからだと思われます。今年、IPRA では、学会に属する私たちの仲間と協力して、社会学、心理学、行動科学の知見を倫理的なコミュニケーションに入れていきたいと思います。

みなさま、一緒に

世界をまたポジティブな軌道に乗せていくためには、今まで以上に私たち相互の協力が必要です。それには PR プロフェッショナルによる良き、透明性のあるコミュニケーションが必要です。2021 年は世界中のメンバー感のオープンな協力の年としていきたいと思います。今まで書いてきたことの中でご関心があることがあれば、ぜひ私か理事にご連絡ください。私たちの経験や知識、情報を共有して私たちの仕事を支えていきましょう！

Message from the IPRA President: A year for trust and diversity January 2021

First, please accept my very best wishes to you and your loved ones for 2021. I wish you all peace and good health, and many beautiful moments of joy. I am very honoured to take on the role of President at IPRA and will do my very best to build on the splendid work of Svetlana Stavreva-Petrushkova and the board over the last two years. Thank you again Svetlana and board members for your support. It would be redundant to cover the many challenges of 2020, a year completely overshadowed by covid-19 and the global pandemic. I do not wish to minimise the impact at all. The last 12 months have been tough both professionally and on a

personal level. Long months away from home fighting the virus in West and North Africa and the Philippines, lockdowns, travel under strict security measures, and the mental health impact were all part of my own 2020.

But for 2021, I want to focus on what's next.

Trustworthy communication

More than ever, I am convinced that ethical, open and trustworthy communications can save lives, bring peace and break the walls of ignorance. I have been fortunate to witness this up close during my covid-19 emergency risk communication engagements in Africa and Asia. Although we all have seen examples of mis- and disinformation, fake

news and straightforward manipulation of facts, we also witnessed prominent examples of good, timely and honest communication. Communication which allows communities to take action, help themselves, and brings hope. It is this kind of communication, based on trust and transparency, that the International Public Relations Association will continue to stimulate and endorse in 2021.

International diversity

We should be proud of our beautiful profession. All of us, professionals and freelancers, in agencies, in-house, in the public, non-profit and private sector alike, are making a difference across the globe every single day. It is this international diversity that I would like to protect and promote even more through our work with national and regional associations. I see IPRA as a true international home for those communication practitioners and associations who want to connect with others beyond their borders and expand their horizons. We all know the world is more interconnected than ever before, but the last twelve months have shown that local and regional communication is still crucial to develop understanding and collaboration. A professional and international network should support this.

Education, professional development and support

The time of SOS (sending out stuff) is long gone. Fast-paced business and societal changes are challenging public relations professionals to upgrade their skills and learn new ones. Our collaboration with CIPR and The PR Training Academy has set the first steps to give IPRA members access and benefits to learn online. But we will not stop there. This year we will endeavour to increase our training and coaching opportunities. Our membership base and our board comprise public relations practitioners with hundreds of years of collective experience. Together with the board, I will look at different ways to share this knowledge at regular webinars, online training and mentoring programmes. Another aspect which touches us all is our mental health. 2020 has been tough on many of us, on a professional and personal level. Even before the pandemic, several reports showed that many colleagues suffered from stress and burnout. Together with help groups and other associations, IPRA will strive to support initiatives tackling this important challenge.

Science-based communication

If the last twelve months have made something clear, it is that communication should be science based and, at the same time, that science is difficult to communicate. We've seen countries struggle to communicate three simple rules; physical distancing, basic hand hygiene and wearing a mask. They struggled, not because of a lack of resources, but because of not enough knowledge about human behaviour and cognitive biases.

This year IPRA will strive to increase its collaboration with our colleagues in the academic world so we can implement recent findings in sociology, psychology and behavioural sciences, into ethical communication.

All together now

We need each other now more than ever so we can get the world back on a more positive track. And we all know it will take good and transparent communication, created and delivered by professional public relations practitioners to do so. Together with my friends and colleagues of the IPRA board we'll make 2021 the year of open collaboration among members and associations worldwide. If any of the topics above are of a particular interest or importance to you, please get in touch with me or members of the board. Let's share experiences, tips, and information to support our profession.

Looking forward to working with you all!

Philippe Borremans
President 2021

☆ ☆ ☆ ☆ 要約 ☆ ☆ ☆ ☆

**IPRA のアワード、GWA が 2 月 23 日よりエントリー受付開始。
PRSJ 会員には全期間に早割料金を適用。**

IPRA が主催するグローバルアワード、ゴールデン・ワールド・アワード (the Golden World Awards for Excellence in PR、以下 GWA) が 2021 年 2 月 23 日よりエントリー受付開始します。

応募概要、エントリーの要領については IPRA の Web サイト www.ipra.org をご参照ください。

応募期間は 2 月 23 日より 3 月 10 日です。

なお、PRSJ 会員は全期間中、早割料金の 340 ポンドが適用されます。また一つのエントリーに対して複数のカテゴリーでの登録も可能です。

日本からは昨年、サニーサイドアップの森ビルをクライアントとした teamLab Borderless で Arts and entertainment カテゴリーで受賞しています。

GWA は 1990 年に創設され、様々なカテゴリーで世界の優秀な PR 事例を表彰するものです。毎年、エントリーの中からその年の最高の水準に達したエントリーを表彰するとともに、SDGs を目的とした活動に対しては、特別に Global Contribution Award for PR を選出しています。国ごとや地域ごとの PR アワードは数多くありますが、世界を対象としたものはこの GWA だけです。

Special offer for PRSJ members from IPRA. IPRA GWA 2021 opening soon

IPRA, the International Public Relations Association, announces that the Golden World Awards for Excellence in PR (GWA) 2021 opens 23 February 2021. Enter online at the IPRA website at www.ipra.org where you will find a description of the rules, an entry kit, the 37 categories, and a set of Frequently Asked Questions.

2021 deadlines

Entries open Tuesday 23 February 2021 and close on Monday 10 May 2021.

PRSJ always gets the best price

No need to worry about the early bird prices. PRSJ members gets the low price of just £340 per entry at any time. (Others pay up to £400). And remember with one click you can add the same entry to multiple categories to increase your chance of winning.

What does it take to get a GWA – last year's agency Arts and entertainment winner

teamLab Borderless

SUNNY SIDE UP GROUP Japan for their client Mori Building

The campaign promoted Mori Building Digital Art Museum: Epson teamLab Borderless, a one-of-a-kind museum for cutting-edge digital art. PR activities helped attract 2.3 million people from 160 countries and contributed to improving Tokyo's overall magnetism as the capital city prepared for the Olympic Games.

This provided a simple solution to an old problem. The revenue-boosting communication strategy for this social project involving the production of soap with Braille dots, encouraged the public to give this soap as a gift. The project meets the UN's sustainable development goal 10: reduced inequalities.

About the GWA

The annual IPRA Golden World Awards initiative, established in 1990, recognizes excellence in public relations practice worldwide in a variety of categories. Recipients of the award take particular pride in the recognition granted to their entry as meeting international standards of excellence in public relations. An overall IPRA Grand Prix for Excellence is presented each year to the entry judged as representing the highest standard that year, as well as a special Global Contribution Award for PR with an objective of meeting one of the UN's 17 Sustainable Development Goals. While there are many national and regional PR awards, there is only one truly global scheme: the GWA.

PRSJ in Media

● 2月1日（金） 『月刊広報会議』（宣伝会議）3月号

『月刊広報会議』3月号における当協会の連載コラムで、2020年においては新型コロナウイルスの感染防止のため中止が続いた「PRプランナー資格認定検定試験」の再開について記事掲載されました。

コラムでは試験再開に向けた3つの方針に基づき採用が決定されたC B T（Computer Based Test）方式の概要と特徴、2021年における試験の実施予定などが紹介されています。

● 1月25日（木） 『CM通信』（ユニ通信社）

「CM通信」1において、当協会が実施した2020年度「日本PR大賞」について、記事掲載されました。

記事では、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」には競泳選手の池江璃花子氏、また「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティが選出され、表彰を決定したことが報じられています。あわせて、それぞれの授賞理由と、池江璃花子氏とダイアログ・ジャパン・ソサエティ代表理事 志村季世恵氏の授賞コメントが紹介されています。

[記事協力：株式会社内外切抜通信社]

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいとおもいますので、
よろしくお願い致します。

広報員会

E メール mail@prsj.or.jp

F A X 03-5413-2147

※ 禁転載